

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | ①備蓄品の保管場所・個数・消費期限等記載の一覧表改定と、備蓄品の保管状況を定期的に確認していく。 | ①非常時に全スタッフが、即時に搬送できるようにシミュレーションができ、入居者様の水分補給と食事提供ができる。 | ①備蓄品の保管場所と消費期限を毎月の職員会議の際に、全スタッフで確認していく。備蓄品担当スタッフが、補充品を調達し、備蓄品一覧表の内容を更新していく。 | 6ヶ月 |
| | | ②非常時自家発電機の可動操作訓練を、定期的に実施。 | ②災害時のライフワーク遮断を想定し、非常時電源確保に努める。 | ②非常時の際に、スタッフが冷静に対応できるように定期的に自家発電機の点検及び可動操作訓練の実施。 | 6ヶ月 |
| 2 | 20 | ①コロナ禍で面会や外出制限を設けていたが、今後は緩和化していくことを決めている。 | ①コロナ禍が完全終息していない現状において、入居者様が安心して面会や外出できる環境づくりの支援。 | ①面会や外出時の際は体調の様子等を把握してから、外出や面会可能かを判断し、面会終了及び外出先からの帰所後は、検温、体調確認、数時間の居室のみでの滞在に協力して頂き、感染予防に努める。 | 6～10ヶ月 |
| | | ②地域ボランティアの受け入れを再開。 | ②地域住民たちとの交流再開に向けてのネットワークづくり。 | ②社会福祉協議会や地域ボランティアサークルなどに声掛けを拡大し、ボランティア内容は感染防止につながる内容に考慮しながら交流の場を再開。 | 6～10ヶ月 |
| | | | | | ヶ月 |